

巻頭言

松寄 くみ子

跡見学園女子大学附属心理教育相談所は、地域の方々の精神的健康、家族や地域社会での人間関係の問題、不登校、いじめ、発達障がい等について、臨床心理学とその関連分野の専門的な立場から心理相談業務を行い、地域社会に貢献することを目的として平成14年4月に開設されました（山口、2004）。平木典子先生が、その立ち上げにご尽力下さいました臨床心理学科、大学院臨床心理学専攻の理念、精神を礎に、歴代所長（山口豊一先生：2004～2007、鶴光代先生：2008～2011、野島一彦先生：2012～2015、山口豊一先生：2016、野島一彦先生：2017）のあゆみのあとをひきつぎ、2018年4月～2022年3月までの、2期4年間の所長を務めさせていただきました。

2018年4月は跡見学園女子大学に心理学部が誕生し、学部、大学院において、国家資格である「公認心理師」となるために必要な科目を整えたカリキュラムがスタートした年でもありました。心理学部長としての野島一彦先生のリーダーシップのもと、それまでの、臨床心理士養成の体制に加えて、公認心理師養成の体制を整え、心理教育相談所においても、相談業務、地域貢献活動の充実に加えて、さらに大学院生の実習環境を整えることが課題でした。2019年には、第1回の公認心理師試験が実施され、教員自らも受験生となり、久しぶりの受験勉強に励むことになりました。おかげで受験した担当者全員、合格することができました。

2020年は、年明けとともにコロナ禍が始まり、感染対策、相談活動の維持などに注力した一年でした。コロナ禍にあって、ある期間は閉所を余儀なくされましたが、制約のある中でも、遠隔カウンセリングの仕組みづくり、対面での実習が難しい場合の実習の工夫など、いろいろとやりくりする1年となりました。

2021年は、いくつかの感染の波を超えながらも、ある程度の感染対策、ワクチン接種などによって、少しは対面での面接、実習が可能な状況になりました。

利用者の皆様には、遠隔カウンセリングや、遊具の数を制限したプレイセラピーなど、ご不便をおかけしながらの相談活動でしたが、2021年には、ほぼ例年のご相談に近い相談回数を実施することができました。

様々の難関もありましたが、ご利用の皆様のご理解、ご協力、担当者、スタッフのチームワーク、院生の頑張りに支えられ、心理教育相談所の業務がなんとか継続できたのだと思います。ありがとうございました。

また、紀要も、図書館のご尽力のもと、リポジトリ化も順次進んでまいりました。さらなるご投稿、ご活用よろしく願いいたします。

そして、2022年4月より、新に下山晴彦先生を所長にお迎えし、新体制の心理教育相談所が始まります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

皆さま大変お世話になりました、そして 今後とも跡見学園女子大学附属心理教育相談所をよろしく願いいたします。

参考文献

山口豊一 2004 はじめに 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要 1, 1.